

◎自由発表（第5会場）【座長・司会】稲田 雅巳（関西地区研究会常任幹事）

【演 題 等】「出会いが人を変える」

【講演・発表者】熊取町立熊取北中学校 校長 齊藤 貴英

・発表概要

自身の少年時代や教員生活において「教員と生徒が信頼関係を築くことが教育の基盤である。」と強く感じた。デジタル化が進む中、体験活動などのアナログな関わりが効果を発揮すると考えており、教員が本気で生徒に関わることで、生徒もその思いに応えると考えている。参加者にもそのような思いをもった教員になってほしいと感じている。

・発表要旨

○自身の生い立ちと教育観

- ・自身もかつて非行・暴走などを経験した少年時代であった。
- ・高校時代に担任が本気で心配してくれ、向き合ってくれた経験が教員を志した原点である。
- ・「やんちゃな生徒」に真摯に向き合い続けた教員生活を送った。
- ・教育の本質は「信頼関係」、「無条件の受容」にあると感じている。

○荒れた学校の再建事例

- ・教育委員会から荒れた学校現場へ復帰した。
- ・体験活動に取り組んだり、家庭訪問で生徒や保護者にメッセージカードを渡したりするなど、アナログな関わりも重要である。

○教育の原点と未来

- ・「愛情を注がれない子ども」は他人を傷つけやすくなる。だからこそ教育現場での「愛」が不可欠である。
- ・教員が「本気」であることが、子どもに伝わると感じている。
- ・戦後教育の「西洋化」が日本の精神・文化を失わせているという危機意識をもっている。
- ・教育者こそが日本人としての誇りや文化を子どもに伝える役目である。

○終わりに

- ・「子どもが主語」の教育の推進
- ・人権教育とは「相手の気持ちを理解する努力をすること」
- ・教員自身が「覚悟」を持ち、汗をかきながら生きること
子どもたちの未来創造につながる。

・質疑応答の概要

Q1 なぜ学生時代、非行に走ったのか。

A1 両親、弟、親戚のすべてが高学歴であった。そのような家庭環境の中、偏差値の高い学校に行けという無言の圧力を感じ、非行をすることで逃避してしまった。

Q2 退職後の夢はあるか。

A2 少年院をまわって夢について語る。弟の仕事を手伝う。カフェを開く。執筆活動をする。] などたくさんある。

